

【全国納税貯蓄組合連合会優秀賞】

思いやりの気持ちそれが税

長洲町立長洲中学校

三年 松岡 咲也

「ただいま！」

父はそう言って必ず笑顔で帰ってくる。父は役場に勤める公務員だ。住民の方々から預かった大切な税金を管理し、よりよいまちづくりの為に利用する仕事をしている。町のイベントや、議会が近くなると夜遅く帰ることが続くことがある。それでも必ず父は笑顔で帰ってきて僕ら家族の話を親身に聞いてくれたり、疲れていても休みの日は遊んでくれたりする。そんなかつこいい父親を昔から尊敬しているし、大好きだ。

「税金ドロボー」こんな言葉を聞いたことはないだろうか。よくネットの書き込みやドラマなどで見たり聞いたりする。私はこの言葉が大嫌いだ。私達は必ず税による恩恵を受けている。今使っている教科書は勿論そうだし、医療費や水道などのインフラ。利用した事が無い人はいないはずだ。父のお給料もそうだ。特に「税金ドロボー」という言葉は父のような公務員に向けられることが多い。

どうしてこんなにひどいことが言えるのだろうか。自分も必ず今挙げた恩恵を必ず受けたことがあるはずなのに。頑張って町のために働いた人には給料をもらう資格がないといたいのだろうか。そんな理不尽通るはずがない。台風や大雨といった自然災害の時に寝ずに避難所の見回りをしたり、祭りをいかに来た人に楽しんでもらえるかを夜遅くまで考え企画したりと常に人々のことを考え働いている。そんな人達が多くいるからこの国は成り立っているのだということを知って欲しいと常々願っている。

私は税金は思いやりの気持ちを集めたものだと思う。私は幼い頃、身体が弱く入退院を繰り返し、生死をさまよったこともある。しかし、今こうして健康でいられるのは、病院の先生や、親の介抱のおかげだけではない。多くの方々の税金による医療費の負担があったからだと思ふ。だからこそ私は、この素晴らしい世の中のシステムをかえずに、税金は今後とも無くならないで欲しいなと切に願っている。今度は私が救う番に――。